

製品名: hnRNP A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12136**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 33kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | HNRNPA1 |
| 別名 | HNRNPA1; HNRPA1; Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein A1; hnRNP A1; Helix-destabilizing protein; Single-strand RNA-binding protein; hnRNP core protein A1 |
| 遺伝子 ID | 3178.0 |
| SwissProt ID | P09651 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト hnRNP A1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100 |

背景

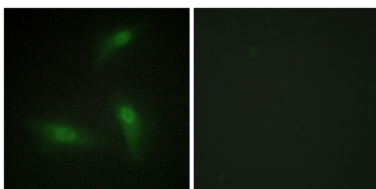
この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質 (hnRNP) ファミリーのメンバーをコードしています。hnRNP は RNA 結

合タンパク質であり、核内の pre-mRNA と結合して pre-mRNA のプロセッシング、ならびに mRNA 代謝および輸送のその他の側面に影響を与えます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、hnRNP 複合体の中で最も豊富なコアタンパク質の一つであり、選択的スプライシングの制御において重要な役割を果たしています。この遺伝子の変異は、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の患者において観察されています²⁰。複数の選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが見つかっています。この遺伝子には、ゲノム全体に分布する多数の偽遺伝子が存在します。[RefSeq 提供、2016年2月]機能:pre-mRNA の hnRNP 粒子へのパッケージング、核から細胞質へのポリ(A)mRNA の輸送に関与し、スプライス部位の選択を調整する可能性があります。PTM:Arg-194、Arg-206、および Arg-225 は、おそらく非対称ジメチルアルギニンにジメチル化されています。類似性:2つの RRM(RNA 認識モチーフ)ドメインを含みます。細胞内位置:mRNA とともに核と細胞質の間を継続的に往復します。リボヌクレオソームの構成要素。サブユニット:スプライソソーム C 複合体で同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRNPA1、HNRNPA2B1、HNRPA3、HNRNPC、HNRPF、HNRPH1、HNRPK、HNRPM、HNRNPR、HNRNPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B から構成されます。PRPF6、PRPF8、RALY、RBM22、RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2、および ZCCHC8。

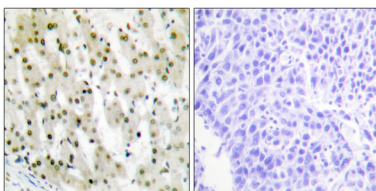
研究分野

スプライソソーム;

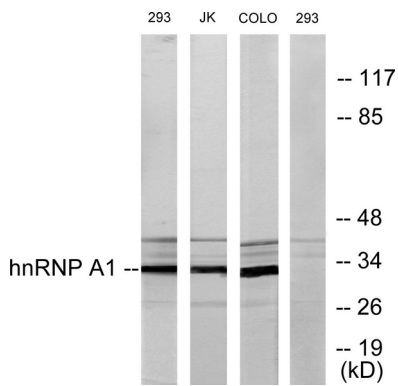
画像データ



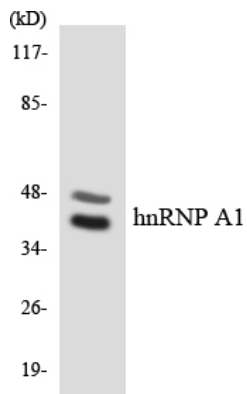
hnRNP A1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



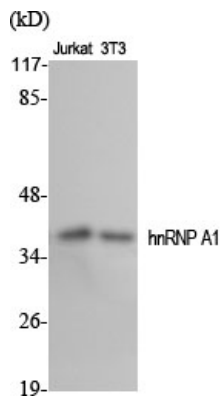
hnRNP A1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



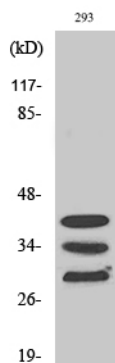
hnRNP A1 抗体を用いた 293 細胞、Jurkat 細胞、および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



hnRNP A1 抗体を使用した RAW264.7 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



hnRNP A1 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



hnRNP A1 ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析